

「原発推進派への理屈はすべて反論した」と力説する河合弘之弁護士＝金沢市香林坊で

現場

水素ステーションの整備予

(経済産業省の補助金の採択状況)



水素基地



しかし、ロードマップの議論では、「一五年度中に百カ所」以降の目標はまともになかった。つまり、国としても一五年度の架谷洋司社長は国の動きも踏まえ、「東京五輪のころには、石川でも普通に走れるようになってほしい」と話す。ミライはすぐにはやってこない。

今年6日、金沢マリンの先導車の発表見学会で、市役所前を出発する「MIRAI」

昨年十一月のミライの発表以降、石川トヨタ自動車にも多くの問い合わせがあるという。同社の東京五輪の動きも踏まえ、「東京五輪のころには、石川でも普通に走れるようになってほしい」と話す。ミライはすぐにはやってこない。



闘う 法廷で銀幕で

原発政策の欺瞞を追及したドキュメンタリー映画「日本と原発」の上映会が二十一日、県教育会館（金沢市香林坊）で開かれた。監督で、全国の脱原発訴訟の先頭に立つ河合弘之弁護士も来県。上演後の講演で「原発を止めるには国民が確信を持たないと。そのために原発推進の理屈をすべて論破した」と訴えた。（中山洋子）

河合弁護士自らも、被災者や専門家らへのインタビュー取材などを手掛けた作品は昨秋に完成。全国「百カ所以上で上映されている。」「自分が撮るつもり。」

脱原発弁護士 自費製作で監督

金沢で上映会、講演

りはなかった」というていたはずだ。3・11点。そんなアキレスけが、知り合いの監督に頼むと「仕事がなくなると確信する。実ている」と危ぶむ。河合弘之弁護士は、昨年五月には福井地裁から大飯原発（福井県）の運転差し止めを命じる画期的な判決を出した。豊か自然を誇った村は、その歴史ごと放射能に奪われた。「（原発事故）を組織。映画は裁威もある。「原発は自故を起（した）東電と判官の説得も意識して国に置かれた核兵器。政府にきちんと謝らせ製作したという。「国集团的自衛権を進めていく。罪を償わない民も裁判官も、原発事故は国防上の最大の弱る」と訴えた。

いしかわ家庭版環境ISO交付 23家族に認定証 省エネやごみ減量に取り組み家庭を認める「いしかわ家庭版環境ISO」の認定証交付式が県庁であり二〇一四年度に新たに参加した四千八百九十四家族を代表して二十三家族が出席した。谷本正憲知事は認定証を手渡し「取り組みの積み重ねが地球の負荷軽減につながる」と激励。参加者を代表し、金沢市の古瀬紀一さんが「植物のグリーンカーテンなど、楽しみながら続けたい」と話した。（目下部弘太）